

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームきたがた
(ユニット名)	うぐいすユニット
所在地 (県・市町村名)	佐賀県武雄市北方町大字志久4531-18
記入者名 (管理者)	中野 美紀(計画作成担当者)
記入日	平成 20 年 3 月 8 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を玄関に掲げ、スタッフ全員が一丸となり「自分らしく、ほがらかに」その人らしく、地域で暮らし続ける支援を行っている。		理念に対する意識が、持続するよう、また、実施できるように努力を続けていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者及び家族にとって、どうすることが一番良いかを見極め、目標設定することで、理念を共有し、業務に携わるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	お月見会や映画上映会など、グループホームで行っている行事に地域の方々にも参加していただく機会を作り、気軽に立ち寄っていただけるような雰囲気作りに努めている。		一定の地域の方々、絵画教室の先生や生徒の皆様との関わり合いもあるが、もっと幅広く地域の方々との係わり合いを目指していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の方と散歩をしたり、玄関先で日なたぼっこをしながら、近隣の方と挨拶を交わすなど、馴染みの関係が作れるよう努めている。		地域の方などに、気軽に立ち寄って頂けるよう「いろいろの間」を開放しているが、立ち寄る方も少なく、もっと気軽に立ち寄っていただけるような環境を作りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に3回の溝掃除や地域清掃などに参加し、地域や地元の方々との交流に努めている。		老人会などにも参加し、もっと交流が広がるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の出席者の一人である地域の区長より、現在の高齢者の暮らしぶりを聞き、役立つことはないかと考えている状態である。		地域高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合っている。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に問題点があれば、会議や申し送り時などに話し合い改善に努めている。		評価で指摘された事により、各スタッフが日頃のケアの状況を見つめ直す、良いきっかけとなっている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者状況やサービスの実施、評価への取り組み状況などを報告し、話し合いを行っている。そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		今後も継続して、努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の中で、助言やご指導をいただいている。疑問や問題点が出てきたときは、市町村へ伺い、意見の交換を行ったり、助言をいただいたりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	本人やご家族、親戚の方々と十分に話し合い、理解の下、スタッフ間でも学びながら、その方に必要な支援を行っている。		これからもスタッフ間で、学びあいながら、必要な方がおられたら必要性を話し合い、活用できる様に支援を行ってきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いや態度に気をつけ、入居者を尊重した支援を行うよう注意を払っている。		虐待防止委員会が設置してあるため、委員会に参加し、虐待が見過ごされないように防止に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約ごとは管理者やユニット責任者が行き、入居者や家族の不安、疑問点を尋ね、説明を行っている。		不安な点、分からない点は質問をしていただき、今後も理解・納得に努めていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族からの意見、不満、苦情等は箱を設置し、記入して頂けるようにしている他、スタッフが聞き取り、管理者に報告している。それらの意見は、全スタッフで共有している。		入居者一人ひとりの思いを汲み取る努力を、今後も行っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の状況や金銭管理に関しては、面会に来られた際や電話、また、サービス担当者会議などに来られた際に報告している。		健康状態に関しては、看護師が中心となり、家族に報告している。
15	お 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情記入用紙と箱を設置。家族が苦情や意見を気軽に言える関係作りに努めている。		運営推進委員会や家族懇親会でも公表しており、今後も継続していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、申し送り、申し送りノート等を利用し、意見交換を随時、行うように努めている。		今後も継続していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者や家族の状況の変化、要望にはスタッフが柔軟に対応している。		必要な時間帯にスタッフを確保出来る様に努めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。スタッフの異動等があったときは、入居者への関わりをいつもより密にするなど、ダメージへの配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるように、配慮している。	学習委員会を設置し、勉強会を開催している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の宅老所の行事へ入居者と一緒に参加をしたり、ホームの行事に参加をしてもらったりして、ネットワーク作りに努めている。また協力を仰いだり、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	他グループホームへの訪問研修やグループホーム間での研修や交流を行っていくことを話し合っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ個々の状況把握に努め、個人面談の機会を設け、スタッフのストレス軽減に取り組んでいる。	スタッフのストレスに配慮し、対応を行っていききたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各スタッフの努力を把握し、向上心を持って働けるよう、法人での勉強会の開催やスタッフの研修参加に努めている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人やご家族と会い双方の意向を汲み取りながら受け止める様、努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安や相談があれば、いつでも機会を作り、信頼関係を築く努力をしている。	相談しやすい雰囲気作りに努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望している入居者や家族が、今、何を必要とし、何が必要なかを見極めた対応が出来るよう努力している。		入居者や家族の負担を軽減するには、どのような方法が一番良いのかを考え、安心して相談が出来るよう今後も配慮する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が安心し、無理なく生活していただけるように配慮し、スタッフや他の入居者、場の雰囲気に少しずつ、馴染める様に工夫している。		入居者の性格や気持ちを尊重し、少しずつ馴染めるように、今後も配慮する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽を共にすることは、もちろんのこと、入居者の方に知恵をお借りしながら、一人ひとりを尊重し、支えあう生活を送っている。		時間に追われることもあるが、「入居者主体」であることを忘れないよう、今後も努力をする。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との信頼を築くことは難しい事ではあるが、同じ思いを共有し、家族と共に入居者本人を支えていく為に努力をしている。		スタッフ全員が、家族の思いを共有し、共に支えていけるよう努力を重ねていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族の関係を把握し、双方の関係が悪化しないように配慮しながら支援している。		家庭の事情が様々である為、全スタッフが情報を収集した上で、より良い関係が保てるように、今後も配慮していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等に話を聞き、入居者の生活状況に合わせた話が出来よう努めると共に、馴染みの人との関係等が途切れないように支援している。		入居者の知人や馴染みの方が、いつでも面会に来て頂ける様な雰囲気作りに努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係も様々であるが、その関係を把握することで、双方が嫌な思いをしないように配慮している。		今後も全スタッフが配慮していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり、他施設に移られてからも会いに行き、喜んでもらったりしている。また、状態を尋ねたりしている。		支援を必要とする方がいたら、支援を継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者を中心に、家族・介護師が集まり、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意思の把握に努めている。		統一したケアの仕方、対応を今後も、続けていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を収集した時は、スタッフ全員が共有し、申し送り簿などを活用し、把握できるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全スタッフが一人ひとりの入居者を常に観察し、情報の把握に努めながら、「自分らしく」無理のない生活が出来るように配慮している。		今後も入居者の日々の状況の把握に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族等の意見を聞き、入居者本人の意思に添えるような介護計画を作成できるように、努めている。		東京研修センターのアセスメントシートの使用を検討したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しは出来ており、状況・状態に変化が生じた場合にも、その都度、本人・家族と話し合い、入居者本人の思いに沿った計画を作成するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきを個別記録に記入し、申し送りや申し送りノートなどで、状態に変化があった時などは、情報を共有している。		スタッフ一人ひとりが、気づき等があると必ず、申し送り時や申し送りノートに記入するなど、情報の共有を心掛けている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能を活かし、入居者一人ひとりに合わせた支援が行えるよう努めている。		入居者や家族の状況、要望を聞くことで、より良い対応が出来るように、今後も対応していきたい。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	救急蘇生では、消防士の方々に来て頂き、入居者の皆様と一緒に勉強会を行った。その他、イベント事では、ボランティアの方々にも来て頂き協力を得ている。		絵画教室だけでなく、地域に密着したグループホームを今後も目指したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、福祉用具の購入やレンタルなど、連携しながらサービスの提供を行っている。		他のサービスの活用は、ほとんどあっていないが、必要に応じた対応を行っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は、まだあっていないが、家庭裁判所の指導のもと権利擁護の支援を行っている。		地域包括支援センターとの協働を考えていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、希望に沿った医療機関との連携を図っている。		月2回と2週間に一回の割合で、往診があっており、24時間対応である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設施設に専門医の往診があっており、スタッフが入居者と受診に向いたり、家族に紹介をして、認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日中はほとんど看護師が勤務しており、日常の健康管理を継続して管理している。		入居者の健康管理は、医師のもとに行っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が、入院した場合、看護師が主となり、早期退院が出来るようになるなど、病院関係者との情報交換や相談に努めており、連携を図っている。		入院時の状態等は、全スタッフにも伝達され、退院後も安心して、過ごして頂ける様に情報の共有を図っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、かかりつけ医、家族と今後の方向性を十分に話し合い、方向性に沿ったケア方針を共有している。		今後も研修会に参加するなど、終末期に対するスタッフの意識の向上を図って行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアの研修会に参加し、チームとして重度や終末期の支援に取り組めるよう準備を行っている。		ホーム独自でも勉強会を行って行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り先の関係者と面談にて情報交換を行い、住み替えによるダメージが少しでも防げるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーに配慮しながらの対応を心掛けている。	入居者の性格や状況によっては、言葉の掛け方や対応の仕方が適切であるかを判断しながら対応する必要があると思われる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の意思を尊重し、一人ひとりの「出来ること」「出来ないこと」を見極め、判断し対応に当たっている。	入居者の理解力の程度により、働き掛けたり、どれだけの支援を心掛けるか・・・等はあるが、入居者の納得された上で、物事を行うように、今後も心掛けていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況により、スタッフの都合を優先してしまう時もあるが、入居者一人ひとりの状況・状態に応じ、それぞれのペースを大切にしている。	スタッフが、慌しい状況を作ってしまうと、入居者の中には不穏状態となる方もいるため、本人のペースを大切にして頂く様に心掛けている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望により、GHでの理容が可能であるが、他理容室をご利用になる際には、ご家族の協力のもと、お店へ行かれています。また、好まれる化粧品なども使用しておられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳・下膳、盛り付けや後片付けなどをスタッフと一緒にしている。	今のところ、特定の入居者の方しか出来ていないが、今後も継続していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	可能な限り、対応できるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄パターンにより、排泄方法を考えているが、全入居者は、現在、トイレで排泄しておられる。		パット等を濡らさない為にも、時間間隔により入居者に声を掛け、誘導を行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日・時間をスタッフ側で決めているが、現在、定着しており、入居者の皆様も、その時間帯でないと不穏となられる。		出来るだけ、本人希望で対応していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なかなか、眠れない方には、温かい飲み物を飲んで頂いたり、共同空間等で、会話などをし過ぎていただいている。		夜間、不眠の方には、日中できるだけ起きていただき、状態に応じて体を動かしていただいている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の意思を尊重しながら、その方の「出来る事」を中心に、お手伝いを依頼している。		日常生活の中では、家事や洗濯物の役割を持ち、張り合いを持たれる方や畑仕事などを楽しんでおられる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、お金を所持してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月、一回は苑外活動を行うようにしているが、残り組みを希望される方もいる。		今後も取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣や桜・紫陽花見学など苑外活動を月の行事の中に取り入れるようにしている。家族にも声をかけ、出来るだけ一緒に出かける機会を作るよう心掛けている。		入居者の希望に応じての外出は、なかなか出来ていないが、希望に沿った支援が出来るように心掛けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の要求が聞かれた時は、状況により即座に対応しており、家族と話をすることで、落ち着かれる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問に来られた際に、時折、十分な対応が出来ていない時もあるが、来られた際には、笑顔で迎え、居心地の良い空間作りを心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催したり、ケアをしていく中で、身体拘束となっていないかを考えながら支援するように努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵は掛けておらず、入居者が自由に行き来できる状態にしてあり、夜間のみ鍵を掛けている。		黙って出て行かれたり、出て行こうとされることもあるので、スタッフの目配り、気配りが重要だということをスタッフ全員が、認識しなければいけないと考えている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に周囲に目を配り、入居者の所在や様子の把握に努めている。		スタッフの声掛けを徹底し、今後も所在の確認を行っていききたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		今後も配慮していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策委員会が設置しており、月に数回集まり、話し合いを持っている。		事故報告書やヒヤリハット報告書を使用し、会議の場で発表している。その中で、対応の仕方に間違いがなかったか、また、同じ事を繰り返さないようにするには、どうしたらよいか等を話し合っている。今後も努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホームに消防署の方に来てもらい、利用者もまじえ、救急蘇生法の勉強会を行った。年に2回、防災訓練を実施している。	○	これからも、定期的に消防署に依頼し、勉強を行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練で利用者の避難方法を学んでいる。また法人全体の連絡網があり、通報訓練を実施している。	○	地域の方の協力を得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりえるリスクについて家族に説明し、スタッフ間でも対策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を把握し、異変に気付ける様に心掛けている。		スタッフ間で、常に情報を共有し、異変等が見られた場合は、速やかに対応が出来るよう努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが、何の薬を服用しているのかを把握し、症状の変化に努め、確実に飲み込まれたことを確認している。		今後も徹底していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を記入、また、チェックしながら、対応を行っている。		入居者によっては、水分を多めに取って頂くよう促したり、お腹をマッサージするなどの対応をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアに努め、口腔状態に応じた支援をしている。		出来るだけ、ご自分でしていただく様にしているが、出来ない部分は支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは、母体の管理栄養士が作成し、それに基づいて調理を行っている。食事摂取量や水分摂取量は、一人ひとりチェックを行っている。		入居者の状況や状態、要望等に応じて、食べる量や水分摂取を考えている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策委員会を設置しており、時期等により発生する感染症の対策を話し合ったり、突然、発生した感染症には、早急に集まり、対策を話し合っている。		今後も継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	予防のために毎日、台所・調理器具等の消毒などを行い、衛生管理に努めている。食材は、管理栄養士が発注を行い、次の日に必要な物を必要なだけ、前日に届くようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇には、季節に応じた花が植えてあり、玄関や玄関内にも、季節に応じた花を生けている。		時折、玄関内の花が、枯れたり、散ったりしている時があり、スタッフ全員が心掛ける必要がある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーは、もちろんのこと、その月や季節に応じた物が飾ってある。		今後も工夫を重ね、「家」らしく、居心地よく過ごせるよう心掛けていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間や居室の奥には、ソファが置いてあり、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。		今後も工夫をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者や家族と相談し、使い慣れた物や思い思いの物が置いてあり、居心地よく過ごせるような工夫をしている		今後も、入居者・家族と話し合い、工夫をしていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前・午後と時間を決め、換気を行っている。各居室や共同空間には、温度計・湿度計を設置し、記入を行うなど配慮している。		時期により共同空間には、加湿器などを使用し、入居者の状況によっては、各居室に加湿器を置き対応している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は畳の間以外は、バリアフリーになっており、常に整理整頓が来ている。また、その時に使用していない押し車の置き場所にも、本人や他入居者様の障害物とならないよう注意している。		今後も気配り・目配り・心配りで、入居者が自立した生活が送れるよう配慮していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来ない部分を支援し、残存能力を生かせるよう心掛けている。		入居者の意思決定を大切に、今後も自立した生活が送れるように努める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキに出て、日光浴をしたり、歌を歌ったり、また、水やりや畑仕事など、常に活動できるよう活かしている。		今後ものんびりと楽しく、くつろげる空間作りを工夫していく。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「自分らしく、ほがらかに」を理念に置きに、入居者様の「出来るこ」「出来ないこと」を見抜きながら、自立した支援を心掛けている。